



早稲田奉仕園通信

2010年7月31日発行

NO. 59

Today's Hoshien

献堂から88年 スコットホール今昔～今年度の維持補修工事について

早稲田奉仕園のシンボルとして1922年より姿を変えず時代の変遷を見つめてきたスコットホール。

赤煉瓦造りの建物は、完成当時より集会や催し物の会場として多くの人々に利用され、現在も結婚式やコンサート、地域社会の集会やイベント、映画やドラマの撮影などの多目的ホールとして多くの人々に親しまれています。

スコットホールの設計・建設については今まで何度かこの通信でお伝えをしているので詳細は割愛します。奉仕園の創立者ベニンホフ宣教師と親交のあったヴォーリズ建築事務所の設計原案に基づき、早稲田大学の内藤多仲教授・研究室が施工管理を行い、今井兼次助教授（当時）が担当者となって設計を完成させ、竹田米吉店が施工を請け負いました。（通信51号）

完成翌年9月関東大震災で、多くのレンガ建築が倒壊した中、スコットホールは塔屋の一部が壊れただけでした。1945年の東京大空襲で間近に迫った炎にも耐え、その後も折に触れさまざまな修繕を行いながらほぼ建築当時のままの姿を今に残しています。

スコットホールは、神の恵みのもと、多くの人々の力と技、祈りによって現在まで繋がっているという思いを持たずにはられません。

1991年 スコットホール大改修工事

1990年に東京都の歴史的建造物「東京都景観意匠保存事業」に選定され、翌年東京都からの補助金と寄付金や銀行借入等により、総額2億5千万円をかけて大

改修を実施しました。平面図以外に建築資料が残されていないため、全てが手探りの状態から進めなければならぬ大作業でした。

実施した主な改修内容は次の通りです。

・屋根の張替え

従来の2倍の厚さの材料で下地になる野地板を全面張替え。瓦も全て新しいものに交換しました。

・梁と床面の補強

地下ホール部分を改修する際、天井を開けると一階講堂を支える見事な梁が出現しましたが白蟻による空洞化が見られ、また煉瓦壁から一部外れていることも発見されました。全面的に補強を行い、講堂の床を支える鉄骨を配しました。



中庭整備を終わって 2010年7月

献堂から88年 スコットホール今昔		奉仕園人物記No.4	8～9 p
～今年度の維持補修工事について	1～3 p	奉仕園日誌・これからのプログラム	8～11 p
2009年度事業報告	4 p	報告・Information	10～11 p
最近の奉仕園活動から	5～7 p	学生活動のご案内	12 p

・窓枠の取替えおよび壁面の修復

古い窓枠を新しいものに交換、その際一旦周辺の煉瓦を取り外し、再び煉瓦を積み復元しました。それに伴う煉瓦の取替えは約2500個。加えて風雨や蔭によって傷められた目地の補修を実施しました。

・講堂二階席と階段の床張替え

・正面アプローチ部分周辺の整備

約5000個の煉瓦を要し、1個ずつ手作業で積み上げました。

可能な限り原形に忠実に修復し、末永く残していく必要があることを再認識させられた修復でした。これらの工事が全て職人さんの手作業により根気強く進められていったことが記録として残されています。(通信4号、1991年11月臨時号)

改修後～現在に至るまで

この後も、毎年限られた予算の中で必要に応じて対応を行ってきました。二階テラス部分の防水工事、講堂内漆喰壁の補修、エアコン設備更新のほか、幅広い使用に対応するためにイスの入れ替え、床の張り替えなどを実施しました。

2008年、奉仕園が創立100周年を迎えたことをひとつの契機に、奉仕園の精神的な軸ともいえるスコットホールを末永く保全し使用していくため、中長期的な計画を検討する詳細調査を依頼しました。報告を受けた中で建物保全上の緊急性および重要性の観点から優先順位をランク付け、緊急度の高いもので実施可能であったものについては随時実施しました。しかしながら緊急性が高いと指摘を受けた中で、屋根および外壁全体の補修を実施するためには外部全体に足場をかける必要があり、前回と同様手作業で行うため、時間も経費もかかることが課題となりどのように実施するのが良いのか検討を進めていました。工事にあたってはスコットホールを利用している結婚式や集会等との調整も考慮しなければなりませんでした。

現在のスコットホール

東京都に「東京都文化財ウィーク」という企画事業があり、期間中スコットホールは特別公開という形で東京都歴史的建造物の公開事業に参加しています。昨年は10月28日(水)12時からのヌーンサービス(水曜正午礼拝)に続きオルガンミニコンサートを開催。スタッフがガイドをつとめスコットホールの案内を行いました。ヴォーリス建築に関心のある方また以前からスコットホールを知っていたが訪れる機会が無かった方など50名近い方々が訪れ、スコットホールが多くの人に愛され、関心が深いことを改めて実感しました。そのような中で多くの方と歴史的建造物の保存や補修

の難しさを話し合う機会を多く得る事ができたのも、うれしい出来事でした。新宿区主催の文化財を巡るウォークラリーのコースにも入り、街めぐりや、名建築めぐり、スケッチをするグループの方も増えていきます。

今年度のスコットホール維持補修工事予定

前述のように、外壁工事の必要性を強く感じつつ多くの課題について検討している最中、東京都から民間ファンドを新たに設立し、歴史的建造物の保存・補修工事に対する助成事業が検討されていると話を伺いました。スコットホールも新聞で取り上げられました。準備期間中ということではありましたが、担当者も何度か現状を見にこられ歴史的建造物の維持保存の難しさを実感され、助成事業の実現へととなりました。今回、申請の機会を与えられ、今年度実施することがスコットホールの保全に大いに貢献することになるのではないかと理事会・評議員会の決議を経て今回の修繕となりました。

今年度実施する予定の主な改修工事は以下の通りです。

・外壁母屋(軒桁)の交換 屋根部分隙間補修

屋根を支えている木材が風雨により腐食しており、腐食している部分の屋根(瓦・野地板)を一旦はずして、母屋(軒桁)を交換し、雨が直接木材にかからないように金属板を取り付けます。

また、経年により収縮してしまった木部の隙間処理、及び雨の吹き込みによる漏水部分の補修と今後の対策工事を行ないます。



・外壁煉瓦浮き、目地の劣化の補修

外壁全体を調査し新規に交換する煉瓦、煉瓦の割れ補修を行います。劣化した目地をすべて手作業にて撤去し、新たに樹脂系目地を入れ吸水防止剤塗料を全体に塗布します。



・排水設備の取り替え

既存雨樋の大径化及び受け口の大容量化を行い、雨水が溢れることが原因で外壁が劣化するのを防ぎます。

今回実施予定の工事は、簡単に言うならば、長い年月にわたって風雨を耐え忍んできた建物の外側部分＝屋根・外壁を補修することにより雨水が浸透、漏水し内部床なども木構造部や内装まで傷めてしまうことを防ぐ工事です。しかしながら当初からの煉瓦の風合い、煉瓦と木部の取り合い部分など、原形に忠実に補修をするためには、ほとんどの部分を気が遠くなるような手作業で実施しなければならないとのことでした。

加えて地下部分は現在シャプラニールが倉庫・事務所として利用していますが、倉庫を外部に移転し事務所を現倉庫部分に移動することになる予定です。現事務所部分は、長く手をつけられていなかった外部からの漏水対策工事を行い、内装工事を実施する予定です。

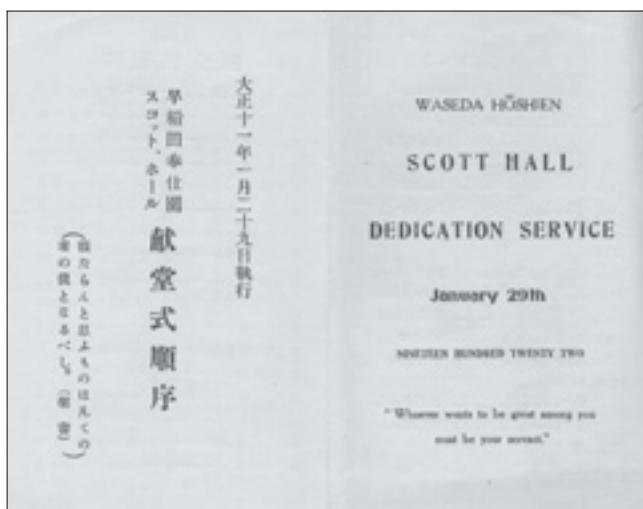
今年88歳を迎えたスコットホール。周囲の環境、状況は変われども、変わることをなきたたずまいで迎えてくれるこの建物は、多くの言葉よりもたくさんのことを物語ってくれます。

時を同じくして、長らく詳細が分からずにいたスコットホールの献堂式に関する資料を出井盛之氏（元友愛学舎舎監・早稲田大学教授）御息女の出井洋子さんからいただきました。

「スコットホール維持補修協力のお願い」を作成しました。多くの人々の奉仕と祈りにより支えられてきた貴重な遺産を守りながら、後世に引き継いでまいりたく皆様のご協力をお願いいたします。



当日の記念品と思われるハガキ3葉



献堂式順序（表面）



献堂式順序（中面）

2009年度 事業と収支のご報告

I 奨学金の貸与

2件計48万円を貸与しました。

II 学生寮

大学学部生寮友愛学舎は新1年生3名を迎えて12名で運営、毎朝の聖書講読など通常の活動のほか、OBOGの支援をいただいて研修旅行（アジア学院）を新たに開始しました。ゲストハウスは7名、国際学舎（早大外国人留学生・研究者寮）は延べ208名が滞在しました。寮内にRA（レジデント・アシスタント）コミュニティールームを開設、学生間の交流が一層深まっています。留学生健康相談室は新型インフルエンザの影響で利用者は大幅増、吉田豊医師・紀野久美子保健師に大活躍いただきました。寮のプログラムでは、留学生が日本のお宅を訪問するホームビジットが好評で、ホストファミリー・学生双方から楽しかったとの感想が寄せられました。早大留学生研修旅行は、第9回福島県白河研修、第7回長野県大岡研修、第4回富士山研修とも多くの方々のご協力により無事終了することができました。

III 学生・青年プログラム

知的障がいをもつ子どもと遊ぶボランティアサークルあすなろ会は毎週土曜日の活動のほか、サマーキャンプ（越後湯沢）、春旅行（南房総）などを通じて子どもたちと楽しい時間を過ごしました。国際理解サークルGlobal Understandingは石戸充さん（早大YMCA主事）を講師に、留学生を招いて各国事情を学びました。国際フォーラムは台湾にて開催、日本と台湾の歴史的な関係や東アジアにおける台湾の状況と課題を学んだり、奉仕園の元留学生との再会もありました。年中行事を楽しむ会Feel Japanは留学生に日本文化を体験してもらおうと大相撲観戦、茶道や陶芸体験プログラムを提供、青年同士の国際交流を進めています。

このほか、「学生がたどるNGOのルーツ、そして未来へ」と題し、日本のNGOの源流を探りつつその現在の価値を再考するシンポジウム、あすなろ会OBOGや親御さんのご協力による第2回障がい者問題シンポジウム「ともに生きる社会を考える」が開かれました。

IV 社会人対象プログラム

アジア語学講座は8言語を開講、延べ299名が受講されました。また、韓国映画シナリオ翻訳クラスも初登場するなど更に多彩な内容となっています。日本語

教授法講座は日本語ボランティア養成講座として期間・内容とも一新し大変ご好評をいただきました。英語講座、楊家老架式太極拳クラスも例年通り行われました。

外国人に日本語を教える日本語ボランティアの会は昨年度も毎週水曜と金曜日に活動、延べ学習者は3584名に上ります。このほか、日本クリスチャンアカデミー関東活動センターとの共催で、大庭健さん（専大教授）の「消えゆく『きずな』」、芥川賞作家楊逸さんの「私が考える言葉と小説」の2つの講演会を開催、多数の方が聴講されました。

V 奉仕園OBOGとの活動

各方面で活躍されている奉仕園関係者を招いてお話をうかがう奉仕園トークサロン、昨年度は朝日新聞記者植村隆さん「北東アジアはどうなるか」、出版社社長芳賀啓さん「地図と古地図のはざ間」の2回を開催しました。8月15日には奉仕園OBOGホームカミングデーを開催、友愛学舎や学生活動の紹介、諸先輩の方々との懇談など和やかな雰囲気になりました。キャリア相談室、奉仕園読書会、奉仕園コーラスも活発に活動を継続しています。

VI セミナーハウス

昨年チャリティー古本市を開催、売上金をアジア学院及びNGOラオスの子どもへ寄付をしました。新宿区や東京都の文化財見学イベントの一環として、スコットホールの公開をおこない、多くの熱心な参観者がありました。このほか、お客様に利便性と快適さをご提供できるよう、改装や設備備品の更新も随時行っています。

VII その他

新公益法人制度への対応作業が本格化、公益財団法人への移行をめざす方針のもと、定款及び諸規程の整備、公益事業や財務の検証等を進めました。本年夏の申請に向け準備を進めています。

2009年度収支（単位：千円）

収入の部		支出の部	
基本財産運用	25,965	学寮事業	7,510
会費収入	2,220	セミナーハウス	30,380
学寮事業	128,366	活動事業	14,372
セミナーハウス	88,846	共通事業費	142,221
学生生活動・講座	17,271	管理費	55,262
補助金・負担金	39,930	支払利息	17,620
寄付金	2,036	減価償却費	43,405
雑収入	2,808	合計	310,770
受取保証金償却	11,047		
合計	318,489		

最近の奉仕園活動から

友愛学舎 新舎生を紹介します



2010年度入舎式 前列左から2人目より長永君と河合君

長永淳志 早稲田大学法学部1年
はじめまして。今年度友愛学舎に入舎しました。出身は兵庫県宝塚市です。趣味は写真と旅行で、キヤノンの一眼レフカメラを愛用しています。

友愛学舎には様々な行事がありますが、その中でも私が最も意義深いと感じているものは、朝の会です。朝の会では、聖書や、他の舎生が学んでいることについて知ることができます。毎朝、全ての舎生と顔を合わせ、共に学ぶことは、団結を深めるうえで大変重要なことであり、友愛学舎の根幹を成している行事だと思います。

行事もさることながら、友愛学舎の最大の特徴は、上下関係に囚われた前時代的な雰囲気は全くなく、舎生同士、大変仲がいいことでしょう。入舎直前には、実家から遠く離れた東京で暮らすことに、多くの不安がありました。友愛学舎の明るい先輩方と、アットホームな雰囲気のおかげですぐに新しい生活に馴染むことができました。伝統ある学舎の一員として、これからますます精力的に活動していこうと思います。

河合祐斗 東京理科大学理学部1年

僕は名古屋市出身で、大学入学を期に東京に来ました。大学では、数学と情報科学を学び、将来は数学の教員になろうと思っています。また、教育学や哲学、倫理学にも興味があります。中学ではサッカー部に所属し、高校では軽音楽部でBIG BAND JAZZをしていました。大学ではダンスをしています。

初めて親元を離れて東京で暮らすことにとても不安を感じていましたが、友愛学舎に入り、多くの不安がなくなりました。また、友愛学舎には朝の会というものがあり、聖書を読みます。最初は

朝起きるのにも、聖書を読むのにもなかなか慣れませんでした。今ではすこし慣れ、これからたくさんの方の事を聖書から学ぼうと思います。友愛学舎にはたくさんの方の行事もあるので、これから4年間がとても楽しみです。

R・A日より

現在奉仕園には4名のレジデント・アシスタント(R・A)の学生が留学生とともに生活をし、さまざまなサポートを担っています。今回は2名の方に感想を寄せていただきました。

原田茉莉絵

私が奉仕園のRAになって3ヶ月が過ぎましたが、想像していた以上に楽しく充実した日々を送っています。単なる一入居者として寮で生活するのではなくR・Aとして寮にしていると、外国人留学生から見た日本のことや早稲田大学のことを聞く機会がありそれだけでも十分興味深いのですが、逆にこちらから外国人留学生の出身国のことを尋ねることもでき、この3ヶ月でだいぶ「外国通」になったような気がします。

また奉仕園では毎月のように留学生同士あるいは日本人学生と留学生の交流プログラムを用意しているので、なかなか自分から友達を作れないシャイな学生や日本をエンジョイしきれていない方には大変嬉しいことだと思います。私も今月末の富士山登頂プログラムに参加できることになっているので、今からとても楽しみにしています。

日本人学生が普通は住めない外国人留学生寮に住むことができ、その上外国人の友達ができるなんて、とても幸せなことだと思います。R・Aになれて本当に良かったです！

顧 卓豪

上海出身の私は2005年に母国から離れ、日本に留学しました。R・Aとして早稲田奉仕園の寮に入るまでは、日本人向け大学生寮で四年間の寮生活を送ってきました。その間にはそのR・Aの方からたくさん助けってもらったり、日本の文化、風習などを教えてもらったりしていました。大学院生になった私がもし今まで自分が得た知識や生活経験を自分の語学能力を活かしながら多くの留学生の方にアドバイスができたらいいなあと思い、奉仕園のR・Aに応募しました。

R・Aになってから、奉仕園の国際的な環境の中であって、自分と違う文化と価値観を持つ留学生と接している中では、衝突、刺激は当然ありましたが、多種多様な文化や価値観に対する包容心

を常に持ち、コミュニケーションを通じて留学生の皆さんとお互いに理解しあいながら新たな自分が生まれたと感じています。やはり奉仕園のようなダイバーシティがある環境の中にと、より斬新なアイデアを創り出すことができると思います。異なる文化や観点に対する友愛・包容精神はまさにグローバル社会と言われる現代において最も重要なことだと感じてきました。近い将来、私が社会に出ても、奉仕園で学んだ友愛・包容精神を持ち続けて人生を歩んで行きたいと思います。

国際フォーラムin台湾

3月12日から20日まで「国際フォーラムin台湾」が台湾・台北にて開催され、日本から4名、台湾から8名の大学生が参加しました。台湾大学構内を案内してもらい、大学生の生活の様子を知り、大学近辺のカフェにて自分たちの言葉で台湾の歴史と現状を語るフォーラムとなりました。フォーラムの実現により、早稲田大学へ留学予定の学生と知り合うことが出来たのは画期的でした。以前に奉仕園へ滞在していた学生との再会も果たすことが出来ました。

期間中、フィールドワークで各地を訪問し、参加者同士で感想を共有しました。台湾基督長老教会国際日語教会との交流やハンセン病療養施設となっている聖望教会の訪問、花蓮にてブヌン族の東光教会を訪問し、太魯閣溪谷を観光しました。

日本の学生は毎週水曜日に開講する国際理解講座Global Understandingで日本と台湾の歴史的な関係、東アジアにおける台湾の状況と課題について学び、準備を進めてきました。2009年度は友愛・信愛・国際学舎、早稲田大学他から20名の参加者を得ることで交流が深まり、活動内容が浸透しています。今後も研修旅行や学寮プログラムを通して、留学生と日本の大学生が集い、真剣に討論し合える場作りと交流の機会を提供していきたいと思います。



第8回早稲田大学留学生長野県大岡研修旅行(5月28日～30日)

早大留学生参加者20名と引率職員2名で、長野市大岡に向かいました。

幸いお天気にも恵まれて、中央高速道路で、バスの車窓から富士山がきれいに見えると、留学生から拍手と歓声が上がりました。中学生と合唱することになっている「ふるさと」を練習しながら、松本城を經由して、雄大な日本アルプスを望む大岡中学校に向かいました。

毎年、大岡小学校を訪問してきましたが、今年は、お隣の中学校を訪問しました。中学生の恥ずかしそうな笑顔に、留学生も自分が中学生だった事を重ね合わせて思い出している様子でした。

中学校では、日本文化を知るゲームを楽しんだ後、茶道、剣道、太鼓、百人一首のグループに分かれて交流をしました。今回の交流で、戦争のない世界平和を強く感じた学生が多かったように思われます。80年ほど前には、ここに集まっているすべての国同士が戦争をしていたが、今、こうしてお互いの国、文化を尊重し、笑い合っている、そんな小さな国際交流が、世界平和を導いてくれるのではないかと感じていたようです。唐澤校長のメッセージ「Understanding love is born to know and understand」を深く心に留めました。

その後、大岡ひじり学園に到着し、学園生のすばらしい和太鼓と踊りを鑑賞しました。次の日は、学園生と共に田植えを体験しました。その後、大好評のホームステイ先では美味しい郷土料理をたくさんご馳走になり、お話に花が咲き、楽しい一夜を過ごすことができました。

最終日は、餅つきと蕎麦打ちをした後、バスを追いかけてくる子どもたちに手を振ってお別れをし、善光寺を見学して東京に向かいました。

この3日間の交流プログラムで、心身共に充足を得、無事奉仕園に到着しました。



「オープン・アーキテクチャー2010」 参加報告



「オープン・アーキテクチャー」とは、歴史的な建物を一般公開することによって、その建物の魅力を地域や町全体の「誇り＝財産」にしよう！というイベントで、2011年9月に世界建築会議が東京で開かれるのに先立って、2008年から開催されています。今年はスコットホールの他に日本橋三越本店や軽井沢のヴォーリズ建築など、各地で80回もの公開イベントを行いました。

奉仕園では5月27日と6月3日の2回にわたってスコットホールのガイドツアーを行いました。建物の外観から始まって、講堂、1階ロビー、2階会議室、テラス、タワーと屋根裏部屋、地下まで約1時間半の間、スコットホールの歴史を交えて案内しました。参加者は各回20名弱、建築関係の方もいて、興味深く見学されていました。

次のスコットホールの公開日は、東京都文化財

ウィークの参加事業として11月10日（水）、11日（木）に行います。詳細はHP（10月頃）でご確認下さい。



セミナーハウス改装、設備更新しました

より利用しやすく、明るい施設を心掛けています。最近の改装、設備更新をご報告します。

101号室：旧型機器取り外し、天井、壁の塗装

* 全体的にすっきり、明るくなりました。

YOU-Iホール：吸音板の壁を新調

* 本格的な吸音板で音楽利用にも対応できます。

6ABC室：イス交換、キャスター購入

* 軽やかな雰囲気。移動が楽と好評です。

チャリティー古本市終了しました

売上金59,700円は日本赤十字社の海外緊急・復興支援に寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。

講座「納涼交流会 2010」を開催

7月2日（金）夜、「納涼交流会 2010」と題した交流会には、アジア語学講座、英語講座、日本語ボランティア養成講座の受講生・講師とスタッフ合わせて80名以上が一堂に集い、食事やゲームで楽しい交流のひとつを過ごしました。

今回はクラスを超えてより深く知り合うことができるようにと新しい企画を準備。会場の一角に「アピールブース」を設け、ご自身の関わっている活動や催しのリーフレットを配置しました。NGO活動や写真展など10以上のアピールが集まり、情報発信と交換のよい場となるとともに、みなさんの幅広い活躍を知ることができました。

また、全員で行った「名前ビンゴゲーム」は9名の方のお名前をうかがってビンゴをねらうゲームで、「お名前は？どちらのクラスですか？」と初めての方とも自然にお話できたようです。1等賞の「講座受講料50%オフチケット」を目指して大盛り上がりとなりました。

スリランカカレーやモンゴルボーズなどアジアのお料理も大好評。歓談の時間には各クラスの

レッスン風景のスライドショーも流れ、ふだんはなかなか知ることがない奉仕園の講座全体にもふれていただけたと思います。みなさまご参加ありがとうございました。



奉仕園人物記 No. 4

白須英子さん (イスラーム世界・翻訳の第一人者)

山口 志朗

翻訳講座で新人賞受賞

——良家の主婦でありながら、どうして大変な仕事である翻訳家を目指されたのか。また成功された理由を聞かせてほしい。

白須 日本女子大学英文科を卒業後、ソニーへ入社し海外勤務をしたのが、私の外国との出会いであり開眼でした。結婚後、夫の留学(医学者)に随いてワシントンで暮らし海外への関心がさらに高まりました。

その前後に子どもが生まれ、母として子育てを優先しておりましたが、その間も仕事への復帰意欲が強く何かと模索していました。ただ、末っ子が脊椎に障害のある子だったのでフルタイムの職場復帰が難しい。それで家に居ながら英語を活かせる仕事としてターゲットにしたのが翻訳です。

最初は無名の素人の翻訳など誰も相手にしてくれません。自分の翻訳技術を高めるため「翻訳通信講座」で勉強し、下訳や通訳のバイトなど下積み生活が長く続きました。そんな折、出版界への登竜門といわれる同講座の新人賞に選ばれ転機を迎えました。その後翻訳編集などで出入りしていた中央公論社で私持ち込みの「ナポレオン1812」が出版され、翻訳書として異例のヒット、これが私のデビュー作となりました。

中央公論社でさらに数冊出版しましたが、その頃からNHK出版、草思社、ダイヤモンドといった大手から依頼が来るようになり現在に至っています。

——子供時代から作文が得意だったのですか。

白須 中学時代から国語が好きで、図書館からジイド、ヘッセ、阿部次郎の「三太郎の日記」などを借り

出し友達と感想文づくりを競っていました。高校では西洋史が好きになり大学卒業まで英米史に親しみました。好きになったのは良き師に教わったからだと思っています。



歴史は西から東へ移動

——歴史の観察者として、ポストモダンといわれる21世紀の世界がどのように変わっていくとお考えでしょうか。

白須 歴史がどう動いていくかについては私の実体験を話します。1988年頃自作品の舞台となったドイツ周辺を旅行したとき、現地の人たちがしきりに92年のEU統合のことを話題にし、間もなくベルリンの壁など無くなると予想していました。それはEUができると東西ドイツが一体参加する可能性が高く、その直前に境界付近で動乱が起きるという意味でした、89年になるとこれが現実となり、「壁が崩壊」たちまち中東欧諸国に飛び火し「東ドイツがこけたらソ連がこける」という形でソ連の崩壊につながりました。

当時のソ連・東欧圏では歴史が渦巻きながら西から東へ移動していることを実感しました。

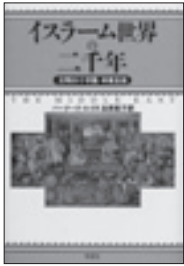
90年代半ばロシアに隣接する中近東イスラーム圏で

これからのプログラムご案内

- 7/30 行(〜31) 学寮、早大グローバルオーナーズカレッジ夏季プログラム36名滞在(〜8/20)
- 8/2 学寮、日本語別科大学院生退寮(〜4)
- 8/7 モンゴルスタディツアー(〜14)
- 8/9 スコットホール外壁工事(〜10/30)
- 8/13 あすなろ会キャン(〜15)
- 9/2 第一回臨時理事会
- 9/24 学寮ウェルカムパーティ
- 11/5 第10回早大留学生福島白河研修旅行(〜7)
- 11/10 東京都文化財ウィーク、スコットホール公開日(11)
- 11/13 友愛ホームカミングデー
- 12/11 奉仕園クリスマス
- OB・OGクリスマス

動乱や宗教運動が起き始めたときも「歴史は東から南へ移動しているのだな」と痛感しました。

その頃初めての中近東物である「オスマン帝国衰亡史」を翻訳出版したのですが、イスラームの宗教資料を沢山集めていたので、中近東が急を告げだすと「イスラーム関係は白須に頼め」と翻訳依頼が増加、あれから15年たちました。そんな中で9・11事件のちょうど4ヶ月前に出版した「イスラーム世界の二千年」が大反響を呼んだことは、望外のことでした。



(草思社)

力の続く限り翻訳活動を

——今後の世界に宗教はどのような影響を与えるのでしょうか

白須 21世紀は多様な考え方を認め合う多元化社会にならざるを得ないでしょう。国家や集団が自分たちの宗教語で十字軍とか原理主義などと意見を主張している限り、それは噛み合うことがなく挙句にテロや戦争を招きます。そのことに気づいた西欧諸国では最近、少数派に対する制度的差別の是正に努めています。メンタル面の差別はほとんど解決していません。日本でも同じですが、少数派のアイデンティティーや習俗が理解できず、別扱いにしてしまふのです。



(藤原書店)

今世紀は制度的差別解消に10年、メンタル面の差別追放に20年かかると予想しています。その間に戦争が起きるかもしれません。

最近はこの新興イスラーム世界について、ムスリム出身で英語で情報を発信できる学者らが登場し、非ム

スリム学者では解からない、体験から得た好論文を次々と発表しています。こうした動きに注目すべきで、私の最新訳書「変わるイスラーム」「仮想戦争」はこの範疇に属する本です。今後も自分の力が続く限り異文化理解のためこの種の本の訳を続けていきたいと願っています。

——翻訳を志す若者たちへのメッセージを

白須 まず日本語をよく勉強し文章力を磨いてください。翻訳の中身は日本語力が4割、原書外国語力が3割、専門分野に関する雑学または好奇心が3割で決まるといわれています。もう一つは、英語とペルシャ語、英語と中国語といった風に二カ国語をマスターしてください。

翻訳生活の中で印象に残っている自作品は「ソヴィエトの悲劇」「オスマン帝国衰亡史」「イスラーム世界の二千年」「図書館の興亡」などです。

——早稲田奉仕園について

白須 学生時代に奉仕園、早稲田教会にきてイエスの葡萄の樹にながってから50年、初めて英語文化圏の扉を開いてくれたフリデール先生はじめ、翻訳ではOBの石田友雄氏(元筑波大教授)、竹内新子氏(元イスラエル大使館広報)、星田文子氏(米国司書)、藤野雅之氏(元共同通信文化部)らから貴重な助言をいただき助けられました。また新刊が出るたびに読書会を開き、感想や励ましをくれた奉仕園の仲間がいなかったら、次の訳書に取り組む元気が出なかったでしょう。



(草思社)

前回、大津留敬氏記事の中で中尾博明氏とあったのは裕彰氏が正しく、短歌「うずまきのぼる」は「うづ」(古語)の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。

7/29	7/28	7/26	7/17	7/16	7/2	6/27	6/22	6/21	6/18	6/16	6/15	6/12	6/11	6/7	6/3	6/1	5/28						
早大留学生夏の富士登山研修旅行	年コース終了	学寮SILS留学生退寮(28)	日本語ボランティア養成講座	アジア語夏の3日間集中講座(19、25)	奉仕園読書会	講座「納涼交流会」	年中行事を楽しむ会、茶道	留団協・定例会出席(於和敬塾)	友愛奉仕OB・OG会打ち合わせ	奉仕園読書会	評議員選定委員会	全5回、講師 大貫隆氏(19)	共催「いま、聖書を読むとは」	あすなる会お泊り会(26)	澤健氏	奉仕園トークサロン 講師 中	評議員会	留学生ホームビジット(7/11)	理事会	工事(5)	セミナーハウス101号室改修	修旅行(30)	第8回早大留学生長野市大岡研修旅行

第8回 早稲田奉仕園トークサロン

アジア障害者福祉のパイオニアとして知られる中澤健（奉仕園OB、63年早大教育卒）・和代夫妻が、6月13日午後5時リパティホールで「アジアは若い力を待っている」と題して講演されました。学生、OBら50人がボルネオ島からの報告を熱心に聞きました。



中澤さんはあすなろ会創設者の一人。秩父学園教官、厚生省福祉専門官を経てマレーシア・ペナンで障害者施設を開設、軌道に乗せた後ボルネオ島の森林地帯に夫人と移住、現地住民の共助施設「ムヒバの郷」を立ち上げ現在中身の充実に努められています。

中澤さんが奉仕園を訪れたのは、学生や若者にアジアへの関心を深めてもらうため。

- ①施設作りのワークキャンプにきてほしい
- ②肉体労働の中で自分を見つめ直してほしい
- ③様々な国籍、境遇の人々と共に生きる意味を考えてほしい……などと話され、特に「自立」とは孤高に生きることでなく、他者と生活や労働面で「共に生きる」ことだと強調されたのが印象的でした。

また今後の計画として高速ボートを取得して、さらに奥地への福祉サービスを明らかにされました。

- 東京YMCAより、創立130年記念誌「東京YMCA 130年の歩み」をいただきました。
- 奥島孝康理事長より、早稲田大学退職記念の1冊、「西北からの旅人」(成文堂)をいただきました。「早稲田奉仕園創立百周年を迎えて」も収められています。
- 出井洋子様より、1922年のスコットホール献堂式順序と絵葉書3種、各2枚をご寄贈いただきました(3ページに写真掲載)。貴重な史料をありがとうございました。

100年史編集中に古谷圭一様から寄せられた情報によりますと、バプテストの機関紙「基督教報」639号に献堂式の記事があり、パデルフォード氏は欠席とのことでした。

ちなみに、奏楽のビッケル嬢はフリデール宣教師夫人バーバラさんの母、エバリン・タッピングさんと思われま。塩澤昌貞先生は大隈重信総長が逝去した当時の早大学長(第2代総長)、増子喜一郎・早稲田中学教頭は戸塚の土地入手と大いに関係すると目されま。

奉仕園会館北側外壁工事が行われました

1988年竣工の早稲田奉仕園会館、北側外壁の補修、塗装、タイル化粧が行われました。あわせて中庭も整備されました(1P写真)。



Data Room

- 在米の山田和明牧師より、「BURMA BAPTIST CHRONICLE」という1963年ラングーン大学発行の本をいただきました。ベニンホフ宣教師の名前が出てきます。

5 / 27	5 / 24	5 / 21	5 / 20	5 / 19	5 / 17	5 / 16	5 / 15	5 / 13	5 / 12	5 / 11	5 / 10	5 / 9	5 / 2	4 / 30				
(6/3)	27)	アジ ア語 学講 座(T ea B reak (奉 仕園 読書 会	康 相談 室)	職 員対 象、 応急 手当 講習 会(健	常 任理 事会	会 計監 査	戦・ 江戸 東京 博物 館見 学	年 中行 事を 楽し む会 、大 相撲 観	のホ ーシ ョー ルを 作り よう	アジ ア語 学特 別講 座「 モン ゴル	あす なろ 会総 会	学寮 、稲 城市 との 交流 打合せ	本市 (6月 末)	セミ ナー ハウ ス、 チャ リテ ィ古			
2010、 スコ ット ホー ル公 開										(13)	アジ ア語 学講 座入 門ク ラス 開講	秋田 県中 学生 来訪	友愛 、信 愛、 山手 、三 学舎 交流 会	(於 光が 丘公 園)3	春祭 りハ ワリ ンバ ヤル に参 加	モン ゴル 語ク ラス 、モ ンゴ ルの	舎生 打ち 合わせ 会	友愛 奉仕 OBOG 会・ 友愛 学舎

寄付金のご報告

2010年3月21日～2010年7月31日（順不同・敬称略）
小西淳、新川美恵子、茨木龍芳、名取智子
合計金額：21,000円

〈友愛活動支援寄付金〉

土屋弘道、布施洵雄、江口裕子、古賀博、加賀谷欣治
小口弘恭、伊藤幸史、石塚多美子
合計金額：77,000円
感謝をもってご報告申し上げます。

友愛学舎活動支援のお願い

奉仕園創立100周年を機に、奉仕園OBOG有志により「友愛奉仕OBOG会」を立ち上げ、早稲田奉仕園事務局とも連携して、舎生の活動を見守りサポートする体制を少しずつ整えてまいりました。昨年は、多くの皆様のご協力により、アジア学院における研修へと舎生を送り出すことができました。本年度は舎生より「沖縄から友愛を考える」というテーマで学びをしたことの希望が出されました。現在、学生たちは沖縄についての学びを重ね、研修の準備を進めております。舎生の熱意を受け止め、私たちが研修実現に向けて支援していきたいと思っております。

つきましては、沖縄で活動しているOBOGの方々の情報、あるいは寄付等、皆様からの物心両面での御協力を賜りたくお願い申し上げます。詳しくは友愛奉仕OBOG会事務局土屋忍（友愛OB）、または奉仕園友愛担当スタッフまでお問合せください。



アジア学院で

Information

- 奉仕園理事・評議員を歴任され、早稲田教員でもありました塩月賢太郎さん（元日本YMCA同盟総主事）が7月9日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。
- 当財団理事長の奥島孝康が、3月31日をもって、早稲田大学を定年退職いたしました。

評議員改選のご報告

任期満了に伴う改選が行われ、下記の16名が就任いたしました。任期は2010年4月1日から2012年3月31日までです。任期中に公益財団法人へ移行した場合も、下記の方々には引き続き評議員としておつとめいただく予定です。（☆印は新任）

- 石川良一（稲城市長）
- 石塚多美子（日本バプテスト同盟大島新生教会牧師）
- 泉谷五十鈴（元公立小学校教諭）
- 伊藤幸史（日本カトリック神学院）
- 茨木龍芳（雨宝山龍蔵寺副住職）
- 梅沢良雄（弁護士）
- 小川忠（国際交流基金）
- 黒住直（鶴見養護学校）
- 佐藤亨（早稲田大学学生部事務部長）
- 土屋忍（武蔵野大学准教授）
- 名取智子（日本キリスト教海外医療協力基金）
- 守田芳秋（早稲田大学総務部長）
- 矢野百合子（立教大学）
- 李明生（日本福音ルーテル三鷹教会牧師☆）
- 大矢直人（日本バプテスト同盟東京平和教会牧師☆）
- 松田智樹（日本放送協会☆）

李相勲、生原至剛、イシュトヴァーン・ラーツ、稲垣隆一、大里昌平、片桐郁夫、小宮健吉、丹野真人、町田直明の9氏は退任となりました。これまでのお働きに心より感謝いたします。

市国際学生会館）	人協議会）	留団協（日本留学生宿舎財団法人協賛）	整備工事（5/28）	奉仕園会館北側外壁工事、中庭	あすなろ会新入生歓迎会	レッスン（22）	アジア語学講座入門クラス体験	「韓国映画シナリオ翻訳」開講	奉仕園読書会	学寮ウェルカムパーティ	英語講座開講	初級I開講	「日本語ボランティア養成講座	ス開講（17）	アジア語学講座初級～上級クラス	友愛学舎入舎式	カッション」オープン講座	英語講座「レクチャー&ディス	初級I」無料講座説明会	「日本語ボランティア養成講座	料体験レッスン	「ムリなく学べる基礎英語」無	拳レッスン」開講	「カラダとココロをほぐす太極
			4/27	4/22	4/20	4/17	4/16	4/14	4/12	4/10	4/7	4/6	4/3											

奉仕園日誌

あすなる会

あすなる会は、1962年「障がいをもった子どもと活動する」学生ボランティアサークルとして発足しました。福祉の専門家を目指す人だけでなく、学生が障がい児(者)の状況を自らの問題としてそれぞれの立場から積極的に取り組んでいます。

活動は毎週土曜日午後、早稲田と十条の2つの地域に分かれて子供たちと遊ぶ通常の活動のほか、春と夏の旅行と遠足、学生と宿泊するお泊まり会、焼きいも会、クリスマス会など楽しい行事もたくさんあります☆新歓期、学年に関係なく参加者を募集しています。大学院生でも大歓迎です!

活動には自分のペースに合わせて来られるときだけ来ていただければ大丈夫です。なので、サークルの掛け持ちもできますよ! 連絡お待ちしています♪♪♪

活動スケジュール(2009年度)

活動日 毎週土曜日

5月	あすなる会総会	11月	いも会
6月、2月	お泊まり会 (早稲田奉仕園アイビーハウス)	12月	クリスマス会
8月	夏遠足、サマーキャンプ (新潟県越後湯沢)	3月	春旅行、春遠足 (千葉県南房総)

ホームページ 早稲田奉仕園あすなる会 公式ページ

<http://asunaroweb.org/>

*イベントのお知らせや活動スケジュール活動の写真などがホームページでご覧になれます。



国際理解講座

国際化の時代、それは世界のいろいろな人々と率直に話し合い、異なった文化や価値観を持った人々と共生していくことにほかなりません。このサークルはその共生に向けた国際理解の基本的な知識と実際のスキルを養うことを目的としています。

国際理解講座 Global Understanding はグローバル・イシューの幾つかをキーワードとしながら、チューターのアシストも得て、各自の関心に基づくテーマをフリートーク中心のゼミナール形式で読み解いていきます。変わりゆく世界を見つめ、国際理解や国際交流に興味のある人を待っています。

活動スケジュール(2009年度)

活動日 毎週水曜日

5月	台湾の留学生を招いて話を聞く	12月	台湾料理を学ぶ
6月	北欧の留学生を招いて話を聞く	3月	国際フォーラムin台湾
7月	学生プレゼンテーション		

ホームページ 国際理解講座 ホームページ

<http://hoshien.or.jp/volunteer/global.html>

年中行事を楽しむ会

年中行事を楽しむ会は早稲田奉仕園に在籍する早稲田大学の留学生を主な対象に様々な日本の伝統的な文化を紹介している国際交流サークルです。正月には書初め、春にはひな祭りやお花見、夏には花火大会へ、秋にはお月見など四季折々の日本文化を留学生に紹介しています。

このサークル活動を通じて、ただ単に「ともに楽しむ」ということだけでなく、留学生は日本語の勉強、日本人には英語をはじめとする言語を実際に話してみる機会であり、日常生活ではなかなか経験することのできない異文化理解の場です。

活動スケジュール(2009年度)

ホームページ 年中行事を楽しむ会 ホームページ

<http://hoshien.or.jp/volunteer/feelJapan.html>

*年中行事を楽しむ会の一部プログラムはFeel Japanと協力しています。

5月	大相撲観戦・江戸東京博物館見学
6月	茶道
9月	陶芸体験



会員費 (年間)

5,000 円

お問い合わせ

TEL: 03-3205-5414 E-mail: youth@hoshien.or.jp

財団法人 早稲田奉仕園 発行人 吉田 博 2010年7月31日発行

〒169-8616 東京都新宿区西早稲田2-3-1

ホームページ <http://www.hoshien.or.jp>

Tel : 03(3205)5401 / Fax : 03(3205)5413

メールアドレス press@hoshien.or.jp